

## メール便

会報の発送を NO. 47 からメール便にしました。確かに郵便より安いのですが、ちょっとしたトラブルもありました。

各取り扱いの営業所や担当者にもよるのでしょうか、発送に際しネットで取り扱いについて確認し、重量をおのおの計量しそれぞれ概数を把握してからネットで申し込みました。

約束の日に担当者がきましたが、時間が指定よりかなり早くちょっとあわてました。

説明によれば、メール便に登録後一年に一回以上使用は、年二回発行の会報ですからクリアーです。しかしメール便のシールを前もって持ってくるには毎月末支払いとしなければならぬ、ということで今回は発送物を営業所に持ち帰りシールをヤマトのほうで貼ります、との事でしたのでこれ幸いと渡しました。後で清算書をお持ちしますとの事でしたので時間を指定しましたが、又それよりかなり早くきて私は立ち会うことができませんでした。よって家内が数量と数による計算書を受け取り支払いしました。数量は概数と一致していたので納得しましたが、なんと料金の合計が¥20 高くなっていました。微々たる額でしたので、まあ、しゃーないかと思いました。

さて、それから 10 日くらい後の月末後、再度同じ兄ちゃんが尋ねて来ました、夜の 9 時過ぎです。私ももうすっかり出来上がっておりました。

兄ちゃんの申すには、申しわけありませんが数量の確認違いで、¥80 のものが 25 部分漏れていて¥2000 不足なのです、ということでした。にゃんと?? ¥80 といえば 100 グラム以下のもので確かミニたまを 3 部入れたものだけのはずで 14 部くらいしかなかったと記憶していました(事実前の計算書もそうなっていました) そこですぐ前の計算書を持ち出せばよかったのですが、なにせ私もかなりまわっておりましたのでそこまで気が届かず、これからの付き合いと人の良さそうなヌーボーとした兄ちゃんの顔を見て、数が違っていたのかなと思ひめんどくささもあって思わず払ってしまいました。

翌日、冷静になって考えてみてもどうも納得がゆきません。改めて前計算書を見ながら考え付いたのは 105 グラムのものが 2~30 あったので 300 グラムのものと一緒にしていたことがあり、それをヤマトで落とされていて 80 グラムの方へまわしたのか、月末の締めで計算が合わなかったのが新参ものの所へそのつけをまわしてしまったのか? 概数を書いたメモを始末してしまったので今となっては闇の中です。

郵便局もよく間違えて電話が来ること 2~3 回、ヤマトならと思っていたのがこの始末、いずれも信用できないなーと言う実感とともに私ももう少ししっかりせなあかんと思いました…反省!!

## ツマグロヒョウモンの大発生

どこへ行っても誰に聞いても今年はツマグロヒョウモンが多いという話を聞きます。事実

私の周囲でもやたらと目にし、実感として感じております。例会の一人一話でも自宅の庭で発生と報告した方が数名おりました。特に 9 月末より現在までにわーっと増え異常大発生の様相です。場所によってはモンシロチョウやヤマトシジミより多いのです。所用で杉並区の仲西宅をたずねた 9 月末、たどり着く途中車から見た総数 4 頭、中西宅が近づくにつれその目撃数は増え、たどり着いたそこはツマグロヒョウモンの大乱舞、幼虫はべたべた、中西宅の庭はツマグロヒョウモンの大発生地と化していたのです。

この大発生はムラサキツバメの年毎にじわじわ増えて行くという感じとは異なり、10 数年前のアオスジアゲハの大発生（数年間にわたる街路樹にクスノキを選定したため）によく似ています。このときのアオスジアゲハは 2~3 年に渡り大発生し、順次少なくなってゆき現在では大発生以前の状態に戻っています。ツマグロヒョウモンもなんとなく同様なパターンでゆくような気がしてなりません。でないと秋口都会の低地によくやってくるミドリヒョウモンやオオウラギンスジヒョウモン等は食草が同じなので将来見かけるのも稀などとなってしまいます。一体どうなるのでしょうか？

\* 会員の移動（よろしくお願いたします）

退会 原山卓也

入会 遠藤涼 〒187-0031 小平市小川東町 1-2-21-4 1992. 3. 6 中学生

T: 042-343-4816 F: 042-343-4818 ML: endo.ryoi.dorucus.sp@docomo.ne.jp  
遠藤茂氏のご長男です。

宇野彰 〒360-0856 熊谷市別府 5-148 1970. 10. 19 公務員

T&F: 048-531-2730 ML: yiz04512@nifty.com  
故宇野正紘氏のご次男です。

移転 森本博 〒162-0846 新宿区市ヶ谷左内町 33 シャトー市ヶ谷 501

T: 03-3268-5401

松井弘 〒338-0832 さいたま市桜区西堀 8-23-5 サンナップヒルズ B-301

T: 048-854-3882

新設 遠藤茂 ML: enndo.shigeru.bup.sp@docomo.ne.jp

\* 新聞紙上より

◆ヤシャゲンゴロウの保護増殖  
環境省は、夜叉ヶ池（福井県）  
だけに生息する国内希少野生動物  
のヤシャゲンゴロウ=写真、奥野  
宏さん提供=の保護増殖事業計画  
を決めた。05.10.8読売(4)  
ヤシャゲンゴロウは、飛ぶこと  
ができないなどの特徴があり、環  
境省のレッドリストで絶滅危惧 I

類に分類されている。水質汚濁な  
どにより生息数が減少している。  
計画では、生息数や繁殖状況を継  
続調査するとともに、生息環境の  
維持、改善を図る、とした。人工  
繁殖に取り組み、必要  
に応じて生  
息地への再  
導入も検討  
する。





【職】

Professional

## 「生命のからくり見て欲しい」

ネイチャー・フォトグラファー 今森 光彦さん

05.10.11 読者

大津市内の琵琶湖をのぞむ田園地帯にアトリエをかまえ、身近な自然や生物を撮り続けている。作品集は数知れず、木村伊兵衛写真賞など受賞も多い。最近は、昆虫や草木をモダンアートのように美しく撮影した写真絵本「わたしの庭」を出版した。

25歳でデビューしてから25年間。「わが国のネイチャー・フォトは、この20～30年で、こんなに伸びたジャンルは他にないというほど伸び、国際的にも評価されるようになった」と振り返る。

昆虫、人、風景……あらゆるものが被

写体。自然と人との関わりを「里山」をテーマに追い続けている。素晴らしい瞬間は、偶然には訪れない。現場を何度も回り、季節や時間によって光の状況がどうなるかをリサーチし、「絶対撮れるという自信、確信を持って」撮るという。

寒さ、暑さに耐え、同じ姿勢でじっと待つ過酷さも。クモが巣を張るところを撮影した時は、2週間、徹夜を続けた。

「里山もそうですが、身近すぎて気づかれず、理解されていない自然の魅力、生命のからくりを見てもらい、知ってもらうのが何よりうれしい」



# 「北限の蝶」山麓で復活



カタクリの花に止まるエゾヒメギフチョウ

「ピンネシリはヒメギフチョウ北限の地。愛好家にはあこがれの地名でした」

市川信一郎・北海道教育大教授は、東京から旭川市に転勤して以来、道北、中頓別町のピンネシリ（敏音知）山麓を訪ね、この蝶との出会いを楽しんできた。希少種のギフチョウは黒

イシンの群落があり、エゾヒメギフチョウの生息を支えていた。幼虫はこの葉を食べなければ生育できない。まことにはかない関係だ。

## 北の自然 ものがたり

②

食草の群落が駐車場になっているのを見てがく然とした。「蝶も姿を消してしまっただけでは……」

と黄色の斑紋が特徴だが、「ピンネシリには、独特のきれいな紋を持つ個体群がいたのです」。

旭川から北へ。音威子府から天北峠をオホーツク海側へと越え、荘重なエゾマツの森を下ったところに、旧天北線の敏音知駅があった。この付近には、これまで希少種植物のオクエゾサ

蝶は復活した。2年前に赴任した「道の駅」スタッフ、西原史騎さんは「初夏になると、この駐車場周辺でもお目にかかるようになりました」と言う。

道北の自然のふところは、まだ人知より大きいようだ。  
(写真・梅沢俊 文・小出重幸)